

磐城時報

編輯 石城郡平町野田十四
印刷 石城郡平町野田十四
發行 石城郡平町野田十四
電話 石城郡平町野田十四
廣告 石城郡平町野田十四
印刷 石城郡平町野田十四
電話 石城郡平町野田十四
發行 石城郡平町野田十四
廣告 石城郡平町野田十四

代表者數名上京

片倉組と再交渉

井上、和田兩氏、片倉氏と會見
磐城製糸場問題

石城郡製糸業組合と石城販賣縣土木建築請負業者二百余名利用組合の提唱で片倉製糸と相が平町に集る事として主催者の結ぶ資本金百萬圓の磐城製糸會も亦に平町附近請負業者は十數社設立計劃は片倉製糸との交渉日前から準備に忙殺され會場なる順調に進展しつつあるが去る十二日地元側から和田製糸同業組合長並に平町議井上茂作の兩氏右に關して郡山市片倉製糸工場に同社重役片倉直人氏を訪ひ協議打合せが済んだので来る十七日頃平町から左記數氏上京片倉本社に實現進捗の要望のぶる筈であるが、之によつて同社の設立は大体を決するものと見られてゐる。

鎌田橋改修

急を叫ばれてゐる
車馬の通行でグラブする
工費八萬圓位で計劃か

平町の東側夏井川の橋梁國道鎌田橋は去る大正四年八月の架設にかゝり延長五十五間幅二間四尺、この工費一萬一千圓の舊式な木橋で近年愈々腐朽し馬車、自動車、人力車等に動搖甚だし度修繕してゐる有様で危険千萬の觀があるが、僅か十六尺の幅では四倉、平間三十餘臺の乗合自動車の往復その他を到底呑吐し切れず西岸に停止せしめらるる事屢々なので一般から改設の要を叫ばれてゐる。之について日本坑夫組合磐城支部では十一

土木大會

明日平町の賑ひ
第二十四回縣下土木大會は濱街道工區主催の下に愈々十五日平町に開かるゝ事になった、當日は平土木監督所長工藤氏は語る。

執行委員會

坑夫組合

日夜執行委員會を開き十四日から東京市に開かる、日本労働組合同盟春季大會へ左記派遣員その他同會に提出する議案につき審議した。

常警各炭礦で

有煙炭も出炭制限

五分減をなす事に決定
違反者からは罰金徴收

常警各炭礦では無煙炭の出炭制限をなした事既報の通りであるが、今度は有煙炭を同様出炭の調節を計る事となり此の程各社幹部等協議會を開いた結果現在の常警炭の出炭總額二百五十五萬噸に對する五分減をなす事及び右協定に違反した場合は無煙炭同様違反料を徴収すべく係員を派し毎月末に精算し尚今後各社に對し新坑の開鑿をなさざる事その他に互に決議したが、かした各社協定により各炭礦は相當結局の調節及取引料の余給が生ずるものと見られてゐる。

花見の賑はひは
明日の日曜日から
廣告燈は今夜から点火
不夜城と化す松ヶ岡

消防手の

放火公判

去る一月十日夜間村大字豊間字八幡町橋本久彌方積葉に放火した同村消防手四家幸(二三)は其後平刑務所未決監に收容審理を續けられてゐたが第一回公判を擧げられたが、かくてこの頃夜の新しい開廷された、証人として數名川端や公園をさぐる歩きをする者が増えた事は勿論明日曜を當て込んで速くからの觀櫻客もあ

平町松ヶ岡公園の櫻は、二三日の暖かきで俄かに笑み初め今日では五分咲きと見られ漸やく花によつて廣く各方面からの廣告櫻に興味を添はるため欠く可かとなつて過般來東部電力の武田營業所長自ら陣頭に立つて従業員を指揮しその準備中であつたが昨今の咲具合に時やよしと一雨來これ取つつけに着手し今十四日夜より一齊に点火する事となつた、而もこの電氣會社に於ける半奉仕的の点燈は雪洞と提灯を合し千二百九十一燈で昨年より八十燈を増加してゐるこれが公園の全般と新川端に点せられるので蓋し平町の夜の春ならでは見られぬ陶酔歡樂の境地である、而も平町の夜櫻に興趣を添へる施設は單にこれのみならず公園に、新川端に、二十個の強大な投光器を据へつけ濃艶な光景な場面を遺憾なく照明する事になつてゐるので晝を欺く夜櫻はまた一としは眺めである、かくてこの頃夜の新しい開廷された、証人として數名川端や公園をさぐる歩きをする者が増えた事は勿論明日曜を當て込んで速くからの觀櫻客もあ

比佐代議士

後援會組織
比佐代議士後援會は十三日午後六時から湯本町湯本座で發會式を擧げたが小泉三代治氏開辭を述べ若松縣議議長席につき各種月二十五日平町職業紹介所の世帯一臺を携帶して十一日行衛を

觀櫻第一の賑はひを呈するであらうと察せられてゐる。

水産會役員

石城郡水産會では評議員に立花雄七、特別會員に河野嘉藏の兩氏當選したため知事に認可申請をなした。

公衆電話開通

平町松ヶ岡公園廣場に昨年より建設した花見時の公衆電話は去る十一日から開通した。

内科・外科・耳鼻科
咽喉科・花柳病科
高久病院
院長 高久 忠
平町 電話一三五

關内氏寄附、平町二丁目關内彦太郎氏は赤十字社福島支部事業費中に二百圓を寄附したので有功章を授與された。

菊田專修校
植田町菊田實業專修學校は地方農村子女に對する適切な補助機關として先年開設以來各方面より非常な歡迎をうけ今年も既に定員に近き入學應募を見るに至つたが尚ほ此際募集締切りの早きに失する處から折角同學の機關を逸する場があるを遺憾とし四月二十日迄入學願書の受付をなす事になつたが最近では茨城方面よりの志願者も多數に達してゐる。

來たばかりの出前持

自轉車を横領して逃走
新郷縣東浦原郡津川町生れ已出前持に住み込んだが、得意先から金銭を取つた上同家の自轉車を一臺を携帶して十一日行衛を

朱に交はれば 老婆心

不良少年と聯絡して良家の子女を誘惑する不良少女が非常に多くなり、今少し同性の誘惑の事を申ませう。よくあることですが、しばらく逢はすにわたる級友とあひます、大變にハイカラになつてゐます、譯を聞くと、この頃教養ある青年と交際してゐるといふ。

あなたもう一人紹介してあげたい人がある等と持ちかけます、大學を出た青年紳士の一人や二人交際してゐなくちや駄目だなどといはれる、半ば好奇心もある、また立派な人なら交際してもよいなど、虫のい、虚榮も出る、ところがこれが大變で、いけなさと氣付いた時はもうおそい、ぬきさしならぬ立場に追ひやられてゐます。

要するに同性だとして決して油断はならぬ、古い言葉ですが朱に交はれば赤くなる、友達には充分の注意や警戒を拂つてその毒手に誘はれぬことが必要です、いふ／＼注意せねばならぬが、とにかく交際せぬに眼を、交際らしい交際をせぬに眼を、こーヒー一つ奢つて貰つてもいけない。

いはんや理由なき贈り物や芝居や會などの切符なんかは受け付けてはなりません、男性から直接の誘惑が多いことをよく知つてゐて下さい。

としやう南の別荘に向いたそして隣の別荘にゐる藤子、藤子の美貌に強い愛着を感じた、藤子は遠方へ行かぬか、藤子を紹介しやうと云つて、藤子の兄秀夫を伴ふた、藤子の熱意は岡村より藤子へ急遽に移つた、そして藤子の爲めに岡村より十萬金を出金せしめて、藤子の危急を救つた。或る日藤子は溝口鳥子との結婚を、藤子に打ち明けた、彼女の憤怒は鳥子によつて勃發した、そして小野を尋ねたこと、彼の女の決意はやがて暴風雨の夜別荘に現はれ、岡村に怨み

赤心堂病院
平町田町 電話四七五

産科婦人科 主任 野秋 善直
外科、耳鼻科、泌尿科 院長 新妻 由五郎
主任 小林 四郎
主任 木下 寅市

の一言を射つた。今や意識を失つた藤子は催眠術を仰いで床についたが、生命には別條はなかつた、藤子は名譽を重んじ、此事件を公にせようとはしなかつた、鳥子は藤子の哀願も肯かすその行爲を憤る母に連れられて子爵の別荘を去つた。藤子は氣遣ふ岡村は工場火災報知に接して狼狽歸京した、藤子は小野の來訪を乞ひ、悲痛にその許しを願つた、しかし小野は既に殺人罪を犯し、岡村は工場火災關係者として刑事に共に去つた、數日後、藤子を病院に訪れたものは、兄の秀夫と藤子と、そして子爵を小母さまと呼ぶ千恵子であつた。(終)

儲蓄の味趣 融金の易簡
榮共存共 意誠と實堅

大藏大免 許 磐城無盡商會
本社 植田町
支社 平町 中町
【番九六七平・番一話電】

もで時何りよ所扱取に處る到内縣
すまり募を員會すわ絶いさ下込申

外科専門
入院隨意
上田外科醫院
南町電二九

原齒科醫院
平町土橋通り
電話三一三番

着ナフトール
尺モスリン
模倣銘仙

平 龜田屋
電五七

牛豚肉特價

牛	中	肉	百	金	三
上	レ	肉	同	金	五
口	同	肉	同	金	七
豚	同	肉	同	金	九
中	同	肉	同	金	十
口	同	肉	同	金	十
廉	同	肉	同	金	十
賣	同	肉	同	金	十
主	同	肉	同	金	十
の	同	肉	同	金	十
深	同	肉	同	金	十
谷	同	肉	同	金	十
牛	同	肉	同	金	十
肉	同	肉	同	金	十
店	同	肉	同	金	十

平町停車場前(平劇場入口)
電話五二四番

ユラノスケ瓶詰
花瓶交換のレツタルなしに

四合瓶詰 一本 四十三銭
二合瓶詰 一本 二十二銭

大口の御注文は成る可く前日迄に御申込み下さい、
平町久保町 永山酒造店小賣部
平町四丁目 出張販賣店 電話二〇七番

櫻は公園!! 吳服は三井!!!
春衣新柄特製品宣傳賣出し

◎た花見手拭 別 染一本 金八 銭
◎た花見足袋 黒朱子 金三十 銭
白キヤラコ 金二十 銭

新館階上階下にはあはゆる春の新柄と京人形が陳列されて居りますから何卒御覽下さい。

三井吳服店
平町 (電話三八・七五番)

角兵衛獅子功名帖
松本三郎、松尾文人主演、市川小文治、武井龍三助演

親を呼ぶ鳥
市川小文治、鈴木すみ子演

俱利伽羅峠
全六巻

十三日より マキノ有聲座

高貴藥 **濟命ピリン**
定 價 廿 銭 卅 銭 五拾 銭 壹 圓

◎かせ◎ネツ◎頭痛◎齒痛◎脚氣◎リウマチスの方よ!!
一時も早くきよめ第一の本劑を服薬すれば健康体となり

◎有名藥店にあり

大黒屋支店
電話三〇六番

四月十四日より十八日迄五日間

銘酒 酔の郷 一升壹圓五十銭 壹圓貳拾銭
同 都々逸 一升壹圓ノモノヲ八拾 銭
尙賣出期間後も五合現金買上毎に謝恩券二枚ニテ
酒一合ト交換贈呈

京都齊ヒナ人形 大廉賣
小道具一式

玩具行商人數名募集

平町二丁目 いづや

天下の勝勿來の關を背景として山紫水明の地に醸成されたる大黒屋酒造店銘酒、酔の郷は芳醇無比として年と共に好評を重ねつつあるが、今回同店にては更に一般愛用者各位へ謝恩の爲め吟醸 都々逸の披露を兼ね、當地平館向にも支店を設置して左記の通り謝恩大賣出しを開始する由。